

## 吉崎十七・原田正由旧蔵資料を大学文書館で受贈

8月17日（木）、大学文書館では、吉崎十七（元予科教授、文学部助手）及び原田正由（農学部畜産学科1956年卒業）の旧蔵資料を合計31点、吉田聖子様よりご寄贈いただきました。吉崎十七は吉田様の大伯父にあたり、原田正由はご尊父です。

吉崎十七は、1922（大正11）年から1950（昭和25）年3月まで、北海道帝国大学及び北海道大学（旧制）が付設した予科において、ドイツ語の講師・教授として教鞭をとりました。その後、文学部に籍を置き、一般教養部（1957年教養部と改称）のドイツ語科目の講義を担当し、1959年3月に退職しました。

今回、ご寄贈いただいた吉崎十七の旧蔵資料は、出身校の小樽中学校での卒業証書や作文帳、勤務先の予科での生徒や同僚との写真のほか、永年勤続の表彰状や勲記などです。

予科教室の前で予科の同僚と共に1930～1940年代に撮影された写真には、ドイツ語を担当した東新教授（1923～1944年在職）や、H.ヘッカー（Hermann Hecker、1930～1965年在職）の姿が確認できます。

一方、原田正由は、北海道函館東高等学校を卒業後、1952年に本学に入学し、一般教養部（理類）を経て、農学部畜産学科を1956年に卒業しました。

今回、ご寄贈いただいた原田正由の

旧蔵資料は、受験証票、入学許可書、学業成績表、卒業証書、写真アルバムなどです。

写真アルバムには、大学構内風景、牧場での実習などの写真が貼付されています。入学直後の1952年4月に撮影した写真では、農学部本館を背景に、ポプラ並木を散策する角帽・学生服姿の原田正由が写っています。

今後、ご寄贈いただいた資料は、大学文書館において大切に保管し、展示や利用等を通じて広く紹介して参ります。

（大学文書館）



予科の教官たち（1930～1940年代）  
吉崎十七（後列左端）、H.ヘッカー（後列左2番目）、東新（前列左端）



ポプラ並木を散策する原田正由